

# 特集 水稲における農業経営モデル実証試験の取り組み

## 1 はじめに

米の生産過剰基調がつづく中で、平成5年のガットウルグアイ・ラウンド農業合意の決着による米の部分解放、ミニマムアクセスの受け入れや、平成7年の新食糧法の施行による流通の自由化等により、米については産地間競争が激化すると同時に内外価格差の是正など国際競争に強く巻き込まれる状況を呈している。このような情勢において経営規模の零細な兵庫県農業はきわめて厳しい状況下にある。

この状況から脱却するためには、地域の特徴を生かした経営体の強化など新たな取り組みにより農業に明るい展望を与えなければならない。そこで、水稲、野菜を中心として新技術の開発・導入を図り、サラリーマン並みの一人年間1800～2000時間の労働時間と1経営体当たり700～1000万円の所得を目標とした、心豊かでゆとりのある農業経営の実現に向け、地域に適合した収益性の高い農業経営モデルを実証するための実証試験に取り組んできた（平成6～10年）。

水稲では、効率的な生産、省力技術の導入により低コスト化のための規模拡大の方策を確立するため、米生産を主体とする土地利用型農業技術体系として集落営農と大規模経営農家を対象に地域の特徴を代表する以下の5つの営農類型を想定した。技術的には湛水・乾田直播栽培等を導入した営農体系の実証、超極早生品種を取り入れた野菜との輪作体系、酒米など地域特産物を組み合わせた大規模営農について現地実証調査を行った。

## 2 実証モデル5つの類型

### (1) 県北水稲大規模営農モデル

1.2haの大区画整備ほ場で、湛水直播、乳苗移植、稚苗移植栽培の栽培法と品種の組み合わせにより経営規模の拡大を図り、高収益農業生産の展開を図る。併せて黒大豆の検討を加えた。（実証場所：出石郡出石町）

### (2) 県南水稲大規模個別営農モデル

請負耕作等における個別集約稲作営農方式を実現し、湛水、乾田直播栽培の導入と品種の組み合わせによる作期の拡大と規模拡大を図る。

（実証場所：赤穂郡上郡町）

### (3) 県南水稲大規模個別営農（酒米）モデル

酒米山田錦栽培地帯において不耕起乾田直播を中心とした直播栽培技術の導入による省力栽培により1戸当たりの農業所得を向上させる。

（実証場所：西脇市）

### (4) 県南水稲・野菜複合営農モデル

水稲湛水直播栽培の導入により労働時間の低減を図り、野菜栽培等との組み合わせによる経営規模拡大を実現し、1経営体当たりの農業所得を向上させる。（実証場所：加古郡稲美町）

### (5) 淡路多毛作複合営農モデル

超極早生水稲品種「はつごぜん（兵系54号）」の導入を図り、レタス、タマネギとの多毛作営農システムの構築を目指す。（実証場所：三原郡三原町）

試験実施の間には、平成9年に新たな米政策が決定され、生産調整面積が一層拡大する一方で米価が低下するなど、米を巡る情勢は大きく変動し、県北実証ほにおいて転作への対応と収益性の向上のため丹波黒大豆を導入するなど一部軌道修正を加えた。

## 3 まとめ

本農業経営モデル実証試験により地域に即応した直播技術が確立され、直播栽培の導入により規模拡大が図れるなど経営改善に効果のあることが明らかにされた。ここでは、県北及び県南水稲の各営農モデルについて、それぞれ特徴を持たせてまとめた成果の概要を紹介する。これらの成果は取りまとめのうえ関係者に提供するので、稲作経営改善に活用していただきたい。

西田 清数（中央農技・作物部）